

あだたら

A d a t a r a

二本松青年海外協力隊訓練所 JICA 二本松ニュースレター

2008年夏号(第7号)
—季刊年4回発行—

平成20年度 伊達市草の根技術協力実施中

ウズベキスタンから来られた研修員のおふたり、果樹産地である同国のフェルガナ地方のモモ・リンゴの栽培技術を向上させ、果樹産業の振興を図り、栽培者の経営の向上と地域社会の経済的な発展に貢献することを目的に、今夏も伊達市内で栽培技術や流通手法を学んでいます。

(詳細は4ページ)

JICAの環境への取り組み



今年7月、北海道の洞爺湖でG8主要国首脳会議（洞爺湖サミット）が開催されました。別名「環境サミット」とも呼ばれ、CO₂などの温室効果ガス排出の削減について話し合われました。また、多くのメディアで「エコ」を耳にすることができ、洞爺湖サミットが終了した現在でも、環境に対する関心は高まってきていると言えるでしょう。

JICAでは、以前から環境に対する多くの活動に取り組んでおり、国内外において高い評価を得ています。

そんなJICAの「環境への取り組み」について、いくつかご紹介いたします。

《地球環境問題に対するJICAの技術協力》

・全プロジェクト数…130件 ・実施国数…65カ国

区分	実施概要	実施国、およびプロジェクト名(一部)
自然環境保全 プロジェクト数…39件 実施国数…26カ国	自然環境保全に向けた、住民による自然資源の持続的利用や生物多様性の保全、持続的森林経営などに関するプロジェクト	ラオス→森林管理・住民支援プロジェクト ケニア→半乾燥地社会林業強化プロジェクト マレーシア→生物多様性・生態系保全プログラム エクアドル→ガラパゴス諸島海洋環境保全計画プロジェクト インドネシア→森林地帯周辺住民イニシアティブによる森林火災予防プロジェクト
環境管理 プロジェクト数…35件 実施国数…27カ国	大気汚染、酸性雨、水質汚染、土壌汚染、廃棄物管理といった環境分野の諸問題の解決をテーマとしたプロジェクト	フィリピン→水質管理能力強化プロジェクト ケニア→ナクル地域における環境管理能力向上プロジェクト シリア→全国環境モニタリング能力強化プロジェクト メキシコ→全国大気汚染モニタリングネットワーク強化支援プロジェクト ベトナム→循環型社会の形成に向けてのハノイ市3Rイニシアティブ活性化支援プロジェクト
水資源 プロジェクト数…34件 実施国数…28カ国	途上国における安全な水の安定した供給、治水の向上、水環境の保全、総合的な水資源の管理を目標としたプロジェクト	ミャンマー→中央乾燥地村落給水技術プロジェクト ケニア→ニヤンド川流域総合洪水管理計画調査 エチオピア→地下水開発・水供給訓練プロジェクト エジプト→シャルキーヤ県上下水道公社 運営維持管理能力向上プロジェクト
防災 プロジェクト数…22件 実施国数…23カ国	自然災害に対し、予防、緊急援助、復旧・復興支援といった様々なアプローチによって途上国を支援するプロジェクト	タイ→防災能力向上プロジェクト パキスタン→地震災害復旧・復興支援プロジェクト



▲保全対象のワミグアナ(エクアドル)



▲住民によるハザードマップ作成(タイ)

上記のほか、海外で活動する青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの方々も環境に多く関わっています。

《環境問題に携わる青年海外協力隊とシニア海外ボランティア(一部)》

区分	派遣国名	職種	主な活動内容
青年海外協力隊	インドネシア	環境教育	同国の国立公園の自然環境を維持しつつ如何に環境問題を克服していくかを青少年対象に啓発する
青年海外協力隊	カンボジア	野菜	伝統的な栽培技術を脱却し、有機肥料を利用した環境に優しく安全な野菜栽培を普及させる
青年海外協力隊	マダガスカル	生態調査	希少な動植物の保全を目指して、環境保全に関する啓発活動に取り組む
青年海外協力隊	ガーナ	村落開発普及員	水道水が普及しておらず不衛生な池や河川に頼る状況で、安全な水に関する衛生指導などに取り組む
シニア海外ボランティア	チュニジア	下水道施設保守管理	下水処理施設での適正な廃水処理および効率的な運用に関するアドバイスを行う

では、実際に海外に行く前に訓練をするJICA二本松ではどうでしょう？
磐梯朝日国立公園内にあるJICA二本松が、現在取り組んでいる「エコ」をご紹介します。

《施設関連》 <ISO14001活動の取り組み>

「JICA環境方針」を定め、公表

平成17年度
国内全機関で
ISO14001を認証取得
(独立行政法人初)

ISO 14001

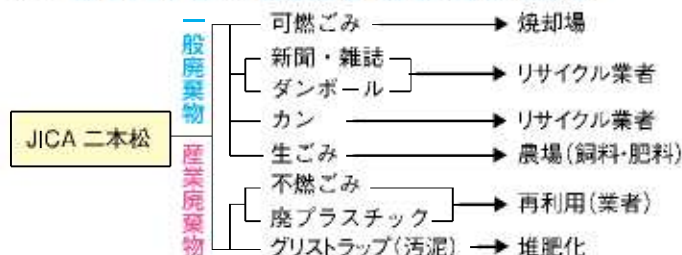
〔組織活動によって生じる環境負荷を予防・低減し、かつ環境により良い影響を与えることを継続的に行うこと〕

JICA 二本松での具体的な取り組みは？

節電

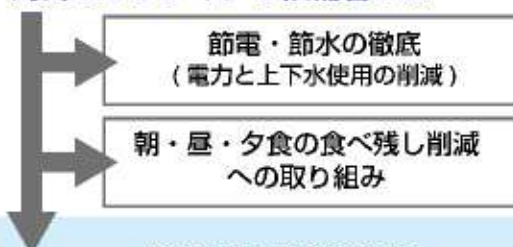
- 構内すべての電気は50%間引き
- オフィス内の冷暖房制限
〔夏〕室温28℃を保つようにします
〔冬〕室温20℃を保つようにします
- エレベーターの使用を制限し、階段を利用します
- グリーン購入法に適合した物品を使用
- ごみの分別（※ 図①参照）

図① 《JICA二本松の一般廃棄物・産業廃棄物の流れ》



《訓練関連》

青年海外協力隊とシニア
海外ボランティアの候補者には・・・



環境に関する講座の実施

	講座名	内容
1	環境と開発	環境に関する講義とワークショップを通じて地球環境問題について考察し、環境保全について理解を深める。
2	地球温暖化防止キャンペーン講座	青年海外協力隊愛知県OB会が中心となり、主に地球温暖化問題に対するボランティアの意識を高める。
3	JICA地球ひろば環境セミナー「地球を守る、未来を守る」	JICA地球ひろばで実施している環境セミナーをテレビ会議で接続し、JICAボランティア候補者も聴講できる講座。 ①中国のエコツーリズムの現状と課題等 ②エコでフェアなトレードについて ③気候変動問題と開発援助(仮題)

福島県在住 OB OG 体験記

青年海外協力隊としてベトナムに派遣されて



青年海外協力隊 平成17年度第3次隊
環境教育 ベトナム派遣
齊藤 敦子(郡山市在住)

日本では盛んに行われている環境教育ですが、開発途上国ではまだ始まったばかりの活動です。そんな開発途上国の一つであるベトナムで、私は環境教育を行ってきました。

ある村で子どもたちに村の環境について聞くと、反応が殆どありませんでした。環境という言葉の意味から説明する必要があったのです。しかし一緒に村を歩きながら気づいた

ことを地図に書き込んでもらおうと、子どもたちは情報満載の立派な地図を作りあげ、さらにこの地図を元に学校周辺のゴミ拾いを計画し、行動に移していきました。環境についての知識がなくても、目の前の環境を見直すことで沢山のことに気づき、自分達なりの答えを導き出して実行することができたのです。子どもたちの変化を見て、環境教育は単に環境についての知識を与えるだけではなく、もともと彼らが持っている、さまざまなことに気づき考える力を引き出し、行動につなげていくもの

なのだ改めて実感しました。

環境は違っても、気づき、考え、行動する力は同じ。日本もベトナムも、それぞれの場所で一歩一歩、自分達にできることを積み重ねています。向かう方向が同じなら、方法が違っても、その一歩は同じ意味を持つのではないのでしょうか。違いや変化から学び、同じ一歩の糧にする。そんな環境教育をこれからも目指したいと思います。



▲ベトナム(少数民族)の子どもたち

せかいのくになら [第11回]



私のふるさと —アメリカ合衆国 (ニューヨーク)

英語 語学講師 ヒル 先生

Greeting from a New Yorker. Or as we say back home, "YO!!" (ニューヨークからこんにちは。オッス!!)

ビルと申します。突然ですが、皆さんに質問です。私とオスカー俳優、デイゼル・ワシントンとの共通点は何だと思えますか。答えは、二人ともニューヨークのマウントヴァーノン出身、ということなんです。

マウントヴァーノンはウェストチェスターにある町です。ニューヨークのちょうど北に位置し、ブロンクスに隣接しています。2003年でのおおよその人口は68,000人以上といわれています。また、海岸に非常に近い洲には、海拔は約33mもあります。町名は、バージニアにあるジョージ・ワシントンの邸宅がマウントヴァーノンという名前だったことに由来します。

人口の民族構成は非常に多様です。98以上の民族グループがあります。おおよその人種構成はアフリカ系アメリカ人59%、白人28%、ヒスパニック11%、アジア人2%です。この主要なグループ内でさらに西インディアン、ジャマイカー人、イタリア人、アイルランド人、プエルトリコ人、メキシコ人、ブラジル人、ドイツ人、ロシア人、韓国人、中国人、インド人、アフリカや南アメリカの民族グループがあります。

みなさんが、私がニューヨーク出身と知ると、これだけ多様な人種と文化の混在する生活はどのようなものなのかと思われることでしょう。私にとっては、なぜ「人種のもつぽ」であることがこんなにもみなさんを驚かせるのか、と思います。この話題になると、いつも私は苦笑いしながら、次の話をするんです。

その昔、私が成田に降り立ったとき、つい日本に来ることができた、と本当に興奮しました。同時に空港ターミナルを歩きながら、違和感を持ち始めました。しかしそのときは、その原因が何であるのか分からなかったのです。しばらく人ごみの中を歩き続け、私はパニックに陥り、何がなんだかわからなくなりました。次の瞬間、はたと気がつきました。「周りの人々がみんな同じだ!同じ背丈、体型、黒い髪、そして顔立ち・・・」私は恐ろしくなりました。まるでクローンにでも囲まれているような気分でした。

これまでの私の生活は、言葉、服装、それらの全てが文化の多様性によって異なっていることが当然でした。背の高い人、低い人。体の大きい人、小さい人。肌



▲ニューヨーク

黒い人、茶色い人、黄色い人、白い人。髪が金色の人、黒い人、赤い人。目が青い人、緑の人、茶色い人、薄茶色の人。

それなのに、空港で私は同じ背格好の人々に囲まれ、それはもう本当にショックなことだったんです。

あれからもう何年もたった今では、あのときのカルチャーショックは笑い話です。もう、クローンに囲まれる生活だなんてもちろん感じていません。そして、日本人や日本文化の中に多様性を見出し、楽しめるようになりました。それは、JICA語学講師としての訓練所での22年間もの教鞭生活によるものです。青年海外協力隊への教授経験はかけがえのないものです。私たちは共に学び、そして共に成長してきました。

もう一つ、この協力隊事業を誇りに思っただけで仕事をしてきた理由があります。それは、精神的なやすらぎを感じ、また訓練では教鞭をとることで、アメリカ、アジア、アフリカ、イギリス出身の同僚や友人と出会い、仕事をすることができたからです。

ああ・・・多様な文化・・・まるで故郷にいるようです。



アメリカ合衆国

アメリカ合衆国 Data

面積：9,626,630平方キロメートル
人口：3億315万人 (2008年)
首都：ワシントンD.C.
公用語：主として英語 (法律上定めはない)
通貨：USドル (US\$)
1 US\$ = ¥108
(2008年8月現在)



World Quiz ワールドクイズ



Q 「日本のおよそ25倍の国土を持ち、多くの自然も残すアメリカ。はたして世界遺産はいくつあるのでしょうか？」

- ①10 ②20 ③30

答えは●ページに

草の根技術協力(地域提案型)

「伊達市ウズベキスタン・フェルガナ地方 果樹栽培技術向上計画」

平成20年度技術研修員受入実施中



▲左から
同行・通訳
ガニシエルさん
研修員
ソリジョンさん
技術指導農家
佐藤孝雄さん

研修員
ムミンジョンさん
福島県ウズベキスタン
文化経済交流協会 理事長
穴戸俊夫さん

果樹栽培が綿花と並ぶ主要産業でありながら、栽培技術や品種改良が立ち遅れているウズベキスタン国フェルガナ州に対して、伊達市では福島県ウズベキスタン文化経済交流協会と協力して、JICAの草の根技術協力(地域提案型)制度を活用した技術協力を行っています。

平成20年度からは3年間の第2フェーズの協力を行っており、5月に伊達市から専門家がウズベキスタンに派遣されて技術指導を行ってきたのに続き、7月23日から9月3日まで、ウズベキスタンから来た研修員が伊達市内の佐藤果樹園を中心に技術を学んでいます。

研修員のひとりムミンジョンさんからは「まず、品質に対して非常に厳しいことに驚きました。栽培に関しては、反射シートを利用した効率の良い方法や環境面を配慮した木酢液(※)を農薬として使用することなどは、是非とも取り入れたい技術のひとつです。また、インターネットを使った販売方法にも興味をもちました。」といったコメントを聞くことができました。

将来的には、今回の研修員の所属先でもあるフェルガナ果樹研究所が中心となり、国際社会で競合できる果樹生産を目指しています。また、今後は伊達市とフェルガナ州との姉妹都市提携への発展も期待されています。

(※木酢液) 炭焼きの際に生じる弱酸性の液体で、強い殺菌作用があることから環境に優しい農薬として注目されています。

猪苗代町長のあいさつ

猪苗代町の国際交流



猪苗代町長
津金 要雄 氏

本町は、まちづくりを長期的な展望に立って効果的に進めるため、昨年「第六次猪苗代町振興計画」を策定し、「豊かな自然とすべての命を大切に作る活気あるまちづくり」を基本理念に、「人が、自然が、歴史と文化が、そして未来が輝く猪苗代町」を目指すべき将来像として、住民と行政が協力し一体となってその実現に向け取り組んでおります。

本町の国際化推進においては、国際リゾート地としての地位を高めるための接客サービスの向上、案内標識の外国語標記やパンフレットの多国籍語化、ボランティアガイドの育成など、外国人が暮らしやすく行動しやすいまちづくりを目指しています。

諸外国との交流の推進においては、今年の6月、野口英世博士ゆかりの地ペルー共和国から「ヒデオノグチ学園」の小学生15名が本町を訪れ、町内の小学生との交流会やホームステイを通じて交流を深めるなど、猪苗代町国際交流協会等と連携を図り各種施策に取り

組んでいます。

また、来年3月初旬には、フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会が、世界の約30ヶ国から約500人の選手及び役員等が参加して開催されます。

町をあげておもてなしの心で大会成功に向けた取り組みを行なっているところです。

猪苗代町長 津金 要雄



JICAデスク — 徒然なるままに…

Akwaaba (アクワーバ)！ ガーナへようこそ！

平成20年度教師海外研修では福島県教員4名を含む7名の教員が8月2日から14日まで西アフリカ・ガーナ共和国へ派遣されました。

ガーナと聞いて思い浮かぶことは・・・？そう、日本で有名なのはチョコレート、そして野口英世博士逝去地でもあります。

今年度の教師海外研修では、アフリカ・ガーナで日本

と繋がりの深いカカオ農園や野口英世博士関連施設を訪れ、そこで活動する日本人の姿、JICAの国際協力現場に触れました。昨年度独立50周年を迎え活気にあふれたガーナ、その姿を紐解き、今私たちに求められていること、できることについて考えてきました。

今後、参加教員のみなさんは、学校現場で授業実践として還元していきます。



現地私立小中学校にて



ガーナ大学付属コレブ病院には、野口博士の研究室が今も残されています。



国際協力や NGO のご相談は…

JICA と福島県の連携促進など、各種ご相談を「国際協力推進員」が承ります。ご連絡は下記までお願いします。

財福島県国際交流協会 JICA デスク 橋本千賀子 TEL：024-524-1315 / FAX：024-521-8308 / URL：<http://www.worldvillage.org/>

福島県出身の候補者

平成20年度第2次隊(二本松青年海外協力隊訓練所)

171名の候補者が
7月9日に
入所しました。

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・



アパレル会社で5年間働き、もっと視野を広げいろいろな人達と関わりを持って様々な価値観を多方面から

JOCV 鈴木 佑美子

(出身地：会津若松市、
派遣予定国：カンボジア、職種：服飾)

吸収したいと考えていた頃、友人から青年海外協力隊の話聞き、今の職業を活かし自分にもできるボランティアがあることを知り、応募することを決意しました。

カンボジアの職業訓練センターでは、16歳から25歳の訓練生を対象に

駒ヶ根訓練所 福島県出身候補者

(出身地/派遣予定国/職種)

- 佐藤 美絵
(福島市/ホンジュラス/助産師)
- 渡部 舞
(喜多方市/ベナン/エイズ対策)

婦人子ども服の製作に関する授業を行う予定です。

「世界の人々とよりよい明日を築くため」すばらしい未来になるよう、共に働き、学ぶ楽しさを分かち合いたいと思います。

～ふくしま青年海外協力隊の会～

地球体験キャラバンスペシャル2008

去る7月27日(日)に県内の小中学生たち200名余が参加した地球体験キャラバンスペシャル2008を、JICA二本松を会場に開催しました。JICA研修員や県内留学生など、外国の方々との触れ合いや異文化を体験してもらう機会として、元協力隊員らで組織するふくしま青年海外協力隊

の会の主催事業として毎年行っているイベントです。

オープニングはスチールドラムの演奏(グループMISOLA)で始まり、その後小グループを作り、参加者から直接外国人に質問をし、交流を深めました。その後、研修員からその国の遊びを習ったり、スポーツをしたり1日かけて、外国の方々とお過ごししました。エンディングの歌とダンスの後には子どもがゲストに抱きつく姿、写真と一緒に撮る姿、連絡先を交換する姿があちこちで見られ、参加者とゲストとの笑顔一杯の触れ合いは、大成功でした。



JICA二本松の開所10周年を記念して始まったキャラバンスペシャルも、今年で5回目を迎え、節目のイベントとして無事終了しました。これを機会に、参加された皆様の国際理解・交流の輪が広がっていくことでしょうか。会では、今後も地域に貢献できる活動を行っていききたいと思います。(3回、4回と参加頂いた家族の皆様、本当にありがとうございました。)



シンハブ工研修員と子どもたち

こちら訓練所

ナースです!

●今回は、水についてお話ししたいと思います。ここJICA二本松青年海外協力隊訓練所では、深井戸200mの水を生活用水として使っています。みなさんは、人間の身体の約60%から70%は水分であることはご存知ですか。私は仕事柄健康に関する本を時々手にするのですが、最近『病気になる生き方』(新谷弘実 著)を読み、水を飲む大切さを改めて実

感しました。これによると、水は免疫システムにおいても重要な役割を果たしており、例えば、気管が十分な水で潤っていないと免疫細胞がきちんと働くことができなくなり、細菌やウイルスに対する抵抗力が低下してしまいます。そのため風邪をひきやすくなります。ここの訓練は65日間ですが、訓練開始約1ヶ月前後から決まって風邪が蔓延します。訓練の大半の時間は語学の授業であり、月曜日から土曜日までしっかり組み込まれ、アラビア語やフランス語、マレー語にタイ語、そして英語など、みなさん寝ている間を惜しんで勉強をしています。結果、睡眠不足で体

力低下、免疫低下を招き、次々と風邪がうつっていくわけです。水を飲めば風邪にもかからないとは言いませんが、せめて身体をより良い状態にしておくために、水をしっかり飲むことを勧めています。天然のおいしいあだたらの水は、更に効果があるように思います。



診療室 大熊由美子(写真左) 安達恵子(写真右)

